

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200397		
法人名	株式会社 ウェブインテリジェンス		
事業所名	グループホームかたかごの郷		
所在地	富山県高岡市伏木矢田上町134-5		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成29年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全体が外部研修・施設内勉強会において、入居者様の立場になって考える事、気付きや思いやりを持つことなど、職員一人一人の向上心の育成に取り組んでいる。
 入居者様・ご家族様が安心して、ご自身の自宅と変わらない様な生活を送っていただけるように、職員同士の情報を密に共有し、より良い支援が出来る様に努めています。
 地域との交流を今後も継続し、地域の方々から愛される施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念に加えグループホームのケア方針「めぐり・気づき・思いやり」としており、職員は利用者への日常生活支援の中で、ご本人の立場になって考え、安心・安全な暮らしへ目を配り、生活の質に気を配って日々ケアにあたっている。事業所内で実施されている研修会では職員自身が順番に講師を務めることで、外部研修で学んだ事にさらに自己学習し自分の言葉で講義する仕組みがあり、職員一人一人の知識・技術の向上に取り組んでいる。
 地域の行事、祭事への参加、非常災害訓練時に近隣の方への協力要請など地域との関係づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を意識した支援を共有できるように、目に付く場所に掲示してある。 職員の名札の裏にも掲載し、朝礼時に唱和する事で、運営理念を意識するように心掛けている。	事業所内に理念を掲示し、朝礼では唱和し、さらに、名札に携帯することで職員各自が理念の周知理解と実践につながるよう取り組んでいる。また、事業所のケア方針(目配り、気配り、思いやり)を休憩室に掲示し、利用者の目線に立ったサービス提供に力を入れるとともに、入居者が地域住民と交流する中で相互理解できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、近隣の小学生・ボランティア活動の方々との交流を図り、地域の一員として安心して暮らせるように努めている。	町内会に加入し、回覧板等で地域の情報を収集し、住民運動会、公民館やコミュニティセンターで催される各種行事へ入居者と共に参加したり、近隣の幼稚園や小学校との交流、ボランティアの方の受け入れなど、地域との関わりを大切に積極的に取り組み、相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援の方法を発信している。 周辺地域の方々から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけをしている。(商店、福祉施設、消防など)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会長・地域包括センター・民生委員・入居者様ご家族などに参加いただき開催し、入居者の状況および活動報告を行っている。 委員の方々より評価および助言・要望等をいただいている。 会議結果は職員全員に伝達され、事業運営やサービスの改善に活かしている。	2ヶ月毎に開催している地域運営推進会議には、自治会長・地域包括センター・民生委員・入居者ご家族等が参加し日頃の活動報告や参加者からの質問、要望や運営に関する提案がされている。 会議結果は職員全員に周知し事業運営やサービスの改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの方に参加していただき、意見をもらっている。 日頃から連絡を密にとり、研修会に参加するなど協力関係を築けるよう努めている。	運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員とは事業所の実状について共有ができており、日頃の取り組みに意見や助言をもらっている。市の担当課とも困難事例があれば相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修として、身体拘束排除のための取り組みについて勉強会を行っている。 職員全員が意識化できるような体制を整え、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	マニュアルは職員がいつでも確認できる場所に設置してある。また、外部で開催される研修や、年に1回は身体拘束(不適切ケア)に関する研修会を事業所内で行っている。研修講師を職員が順番に行ったり、ニュースで不適切ケアの報道があった時は、それをもとに学習会を行うなど、理解をより深めるため、取り組みの工夫を行い、学びを実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを整え職員の理解を深めるため、定期的に研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や権利擁護に関する施設内研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い理解・納得を得た上で、同意の捺印を得ている。 入居者様の状態変化等により契約解除に至る場合は、その後の方針を相談し支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際などに十分な時間を取り、家族様が話しやすい雰囲気を作れるよう努めている。 施設内に苦情相談窓口を設けている。	玄関に意見箱の設置、苦情相談窓口の案内を掲示している。普段は面会時にご家族に言葉がけし、要望などがあれば遠慮なく話してもらえるように努めている。聞き取ったご家族からの要望等は、申し送りノートに記載し職員で情報共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング・朝礼時において、職員は自由に意見や要望を話す事ができる。 必要に応じ、個別に聞く機会を設けている。 自己評価を行い、職員の意見や要望を業務に反映させている。	管理者は、日常的に職員が意見や提案をしやすい雰囲気作りに努めている。日頃のミーティングや月1回行っている勉強会の時間を活用し、職員からの意見や要望について意見交換をする機会を作り、それら意見や要望を運営や業務に活かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を持ち、職場環境・条件等の整備に努め、一人一人が役割責任や向上心を持ち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会を設けている。 朝礼時に「職場の教養」という冊子を読み上げ、倫理的側面の成長を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は研修等に参加し、同業者との交流を通しサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを何度か実施し、本人の思いや不安なことなどを十分に把握し、安心して入居いただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまで何度か機会を持ち、相談・要望・思いなどを把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・看護師・介護支援専門員、本人、家族で話し合い、必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは自宅での生活の延長上に有り、自宅で過ごすことと同じようにできる限りその人らしく生活していただくこと、職員はさりげなく支援する立場であることを、意識できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の面会時、電話連絡、手紙などにより家族と情報を共有し、家族の協力を得られるよう、より良い関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との外出、外食など、馴染みの関係が途切れないよう、配慮し支援に努めている。	以前から利用し慣れた店への買い物や、ドライブ時に本人の自宅近くを通ったり、家族、親族、知人の面会時にゆっくりと本人の部屋で過ごしてもらえるよう居心地よい雰囲気作りを心掛けている。また、一人ひとりが持っている機能に応じ、遠方に住むご家族へのハガキや手紙の交流を支援し、家族のつながりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の性格や相性に配慮しながら、入居者様の孤立を防ぐよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約が終了した場合でも、入居者様、家族様の相談・連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや要望・願いに沿えるようその都度、職員同士が考え、話し合い、支援できるように努めている。	日常生活支援の関わりの中で聴きとれた本人の思いや職員の気づきを介護経過記録、申し送りノートに記載し、それを職員間で情報を共有して、本人の思いに沿える支援に努めている。思いを言葉で伝える事が困難な入居者の方は、表情などから思いをくみ取り、職員間で話しあい支援を行っている。	各記録簿での記入内容について、重複されている事項の見直しなどを行い、職員の記録に係る負担軽減につなげるとともに生活支援に必要な情報収集と円滑な情報共有が図れるよう書式の改善に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントし、入居後も本人や家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、申し送りノート、日報を活用し、日々の変化を共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心になり、サービス担当者会議や日々の意見交換から入居者様の現状に即した介護計画になるよう努めている。	計画作成担当者が中心となり、利用者一人一人の暮らしについての課題やケアのあり方についてサービス担当者会議で検討し、介護計画作成時にご家族に説明するとともに、家族からの要望や意見を聞き取り、それらも介護計画に反映して現状に即した介護計画を作成している。	介護支援計画の実施評価でもあるモニタリングの記録の整理や様式の見直しを行うことで、職員の共通理解を図る取り組みが行われるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、申し送りノート、日報などを活用し、情報の共有、把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスにならないように、個別支援の重要性を認識しながら柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、各居宅介護支援事業所と連携している。 地域の商店、理髪店等と連携をはかり、入居者様の暮らしを支えられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様との連携を密に取り、入居者様が必要な医療を受けられるように支援している。 必要に応じて日々の様子などの情報を医師に提供している。	入居時にかかりつけ医について確認し、希望するところを選択してもらっている。入居前からのかかりつけ医を利用される事が多く、ご家族等の協力を得て定期受診をしている。受診時には、本人の頃の様子をまとめ医療機関への情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の日々の変化、体調不良の把握に留意し、日々の様子を看護師に報告し、相談、情報交換を行っている。看護師は正確な情報を得て判断、指示できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も頻繁に面会に行き、病棟看護師、主治医、家族様との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化された場合の指針を説明している。 入居者様の状態に応じて主治医、家族様と相談を重ねて対応している。	終末期(看取り)の支援は行わない事を契約時に説明し、家族に了解を得ている。利用者の心身状態の変化時には、早い段階から主治医・ご家族・事業所と相談し、利用者や家族の意向に沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が急変、事故発生時に速やかに対応できるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成するとともに、消防署の協力のもと年2回避難訓練を行っている。 地域の防災訓練にも参加し、職員が全員対応できるよう体制を整えている。 非常用の水、食料などの備蓄がある。	年2回の火災避難訓練は、夜間と昼間それぞれを想定した訓練を行い近隣の方にも参加協力を依頼している。非常用飲水・食料を3日間分備蓄し、消費期限も確認されている。	非常災害時の地域の避難先を確認し、万が一に備えられる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重し、入浴、食事、排泄ケアの際、職員の声掛け、見守り等において、自尊心、プライバシーに配慮できるよう対応している。	日頃から、介助の際には、周囲の状況を確認し声掛けしたり、職員同士で言葉かけについてお互いに気づいたことを注意し合うなど、入居者の尊厳を損ねないケアに取り組んでいる。また、年1回の接遇研修を行い理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と職員が信頼関係を日々の生活の中で育み、個別対応を常に意識しながら、思いの表出しやすい関係を築けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いや要望、願いを、その都度職員同士が考え、話し合い、支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、日中において、整髪、髭剃り、爪切りなどを見守りながら支援している。 その日に着る洋服なども、職員と一緒に選ぶことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、入居者様と職員と一緒に食事の準備、盛り付け、片付け、買い物を行っている。 入居者様一人一人の嗜好品を把握しながら、季節感を味わってもらえるように工夫している。	入居者は、食事の準備、盛り付け、片付けなど、できる事を職員と一緒にやっている。 季節感を味わってもらえるように、正月のおせちをはじめ季節毎の行事食を提供したり、外食に出かけるなど、食を楽しむことの支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い活用している。 入居者様一人一人の状態を共有しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人一人に合わせて自立した支援ができるよう努めている。 就寝前は、入れ歯を洗浄液につけ、清潔を保つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをできる限り使用しないで済むように、排泄記録を活用して一人一人の排泄パターンを把握し、自立した支援ができるように努めている。	個々の排泄リズムを把握し、その人にあったタイミングでの声かけ誘導を行っている。オムツは使用せず、リハビリパンツ(紙パンツ)や尿とりパットなど、その人にあった個別の対応に努め、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、体調の変化、活動量等を考慮し、看護師と相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を活用し、個別入浴や一人一人の希望に合わせてくつろいだ入浴ができるよう支援している。 体調が悪く入浴できない場合は、清拭を行っている。	毎日入浴できる環境を整えている。清潔で気持ちの良い生活支援のため、入浴を好まれない方でも言葉かけや洗身用具を工夫し、週3回は入っているように取り組んでいる。また、ゆず湯などを提供し入浴が楽しくできるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを把握し、状況に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、追加、効用、副作用等は、報告・連絡を職員が密に取り、受診記録、書面、日々の申し送りノートを活用して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできる事や思い、要望、願いを、その都度、職員同士が考え話し合い、生き甲斐が持てる生活を送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、買い物、外食の個別支援を心がけて支援している。	桜・紫陽花・コスモスなど季節毎の花見鑑賞への外出、ホームがある地元の伝統祭事である伏木けんか山車祭りに出かけている。日常的にはドライブや買い物へ出かけるなど、外出の機会を意識的に作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際にはお金を所持していただき、ご自分で買い物の支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙・はがき等で連絡がとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活習慣を把握し、季節に合った装飾作りに取り組んでいる。 温・湿度計を置き、室温調整、衣類の調整を行っている。	1日の中で一番過ごす時間の長いリビング兼ダイニングの共有フロアは、手作りの飾り物や訪問時には季節柄、ひな祭りに関連した物が飾られており、季節感が演出してあった。空気清浄器・加湿器を設置し温湿度計にて空調管理にも気配りがされ、居心地の良い空間となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性に配慮しながら、自由にご自分のスペースを保ちながら暮らせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物を自宅より持参してもらい、居心地良く安心して過ごせるように努めている。	ご家族の協力を得て、本人にとって大切な物や家族写真など持ち込んでいただき、その方の個性に応じた部屋作りがなされており、居心地よく安心して過ごせるプライベート空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、やりたいこと、わかること、支援すればできることを把握し、安全にご自分の力で生活できるよう支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23 (9)	各記録簿での記入内容について、重複されている事項の見直しなどを行い、職員の記録に係る負担軽減につなげるとともに生活支援に必要な情報収集と円滑な情報共有が図れるようにする。	職員が書く日々の記録の軽減を図るとともに、日々行っている生活支援に必要な情報収集を簡潔にまとめた形式にし記録する。	日々の様々な記録の見直し。 職員全員で取得した情報の記録の簡潔化に向けての話し合いをし、様式を検討する。	6ヶ月
2	26 (10)	介護支援計画の実施評価でもあるモニタリングの記録の整理や様式の見直しを行うことで、職員の共通理解を図る取り組みが行われるようにする。	モニタリングの記録や整理の方法を職員と共に考え、様式が必要であれば作成する。	職員と課題の見直しや評価をどのように行っていけばよいかを話し合う。 必要であれば、簡単な様式を作成する。	6ヶ月
3	35 (13)	非常災害時の地域の避難先を確認し、万が一に備えられるようにする。	非常災害時の緊急避難先を全職員に周知し、万が一の時に迷うことの無いようにする。	非常災害時の緊急避難先に関する研修を行い、職員に緊急避難先及び避難経路、緊急時受入先を周知する。実際に利用者の方と緊急避難先まで歩き、かかる時を把握しておく。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。